

私の中に生きているあなたへ

笠木田鶴子

秋田県・七六・無職

あなたが旅立ってから一年が過ぎました。私にとってはもう一年、やっと一年と複雑な思いで一周年を迎えました。でもまだあなたが何処かへ旅行中か、入院中か、又二階のあなたの部屋からトコトコと降りて来る様な気がして、この世にいないと言う実感がないままに日々を過ごしていました。しかし近頃ではどうやらあなたのいない生活を目や頭や身体中で少しずつ分かって来ました。

あの夜あなたを病院から連れて帰る時、降る様な満天の星空でした。あんなに帰りがかった家に、あなたは星になって帰って来ましたね。そして二ツ井の町に入った時、美しい朝焼けの空があなたを迎えてくれました。忘れられない、本当に美しい空でした。

あなたは純粹に地域医療に取組み、八十歳を過ぎても、尚、先生、先生と患者さんに慕われ現役のまま逝ってしまいましたが、そのあなたと二人三脚で歩いて来た私の五十五年の人生でした。楽しかった事、つらかった事等々、今では懐かしい想い出になりました。長い間、見馴れた医院の看板をはずした時は涙が止まりませんでした。

あなたは今でも私の心の中にしっかりと生きています。あなたの優しい笑顔の写真が今日も私に微笑んでいます。あなたとの倅せであった日々を心の糧として、これからは生きて行きます。誰しも一度は必ず通らなければならぬ道ですものね。あなた、御安心下さい。私は元気を取り戻しました。沢山の人々の支えを受けて、一日一日を丁寧に大切に生きて自然と道が開けました。あなたが好きだった茶道教室も再開して、社中の人達が集まって来てくれていきます。今年は町の文化祭のお茶席の当番もつとめました。これからは残された老後美しく、明るく、前向きに生きて、あなたとの想い出が一杯詰まっているこの家で生涯を送ろうと決心しました。そして来世にはきつと、きつと又あなたとめぐり逢える事を信じつつ。

*長い間町医者として地域医療一筋に生きてきた夫が昨年亡くなりました。一人になる私を心配していましたが、悲しい一年が過ぎ、これからの老後をどう生きるかを決めて、夫に報告したくて書いてみました。